

ナミビア月報

(2023年5月)

在ナミビア日本国大使館

【内政】

- 農業・水・土地改革大臣の、干ばつ救済への要請
- SWAPO、同性婚の判決に憤慨
- LPM が戦略的に進めるべき道

【経済】

- アルウエンド大臣、Daures のリチウム採掘業者に満足
- アルウエンド大臣、リチウム採掘権を取り消す
- Xinfeng、リチウム採掘権取り消しで政府を提訴

【外交・対外関係】

- SADC の臨時トロイカサミットの開催
- イスラエルのアパルトヘイト戦術を非難
- ナミビア、ボツワナ両軍が合流
- ナミビアとドイツ、公園のインフラ整備に1億3240万N\$を投入
- 西牧大使のインタビュー

【内政】

●農業・水・土地改革大臣の、干ばつ救済への要請

シュレットヴァイン農業・水・土地改革大臣は、今週スワコプムントで開催された戦略・年次計画ワークショップにて、「干ばつが再発したことで、早急な対策が必要であることが浮き彫りになった。これには、将来の適応力と回復力を高めるための雨水や洪水の採取の拡大が含まれる。」と述べた。彼は、生産者への壊滅的な影響を軽減するために、干ばつ救済策と流通網の動員・配備を促した。シュレットヴァイン大臣はまた、水不足や衛生上の問題に対処し、地下水資源を効果的に管理することが、現在および長期的な重要な目標であると述べ、海岸でのモジュール式海水淡水化プラントの建設（年内に調達と官民パートナーシップの最終決定が必要）が重要であるとコメントした。また、浄水場や配水インフラの建設・拡張、国境を越えた共有水資源の効果的な共同管理のための戦略策定を中心に、首相府「水の安全保障委員会」の管轄下にある水分野支援プログラムや関連プロジェクトの実施を加速することも優先事項である。（5月10日付サン紙3面）

●SWAPO、同性婚の判決に憤慨

与党 SWAPO は、ナミビア人が関与する外国で成立した同性婚を政府が承認することを強制する、今週出された最高裁の判決を支持していない。同党は、裁判所が外国から法律を

輸入し、同性婚に関する国内法を無効にしていると非難している。ナミビアでは同性間の関係や結婚は法的に認められていないが、最高裁は 16 日、同性カップルは憲法の観点から法の下での平等を受ける権利があるとする判決を下した。(5 月 19 日付ナミビア・サン紙 1 面)

●LPM が戦略的に進めるべき道

LPM 党（土地なき人々の運動）から立候補し、新たに当選したキートマンシュアップ地方選挙区評議員のウィレム・ラブシャグネ氏は、前進に関する計画は自分だけのものではなく、党によって戦略化されたものであると述べた。これは、15 日に行われた選挙で、キートマンシュアップ地方選挙区の評議員の空席を埋めるために立候補し、当選したと宣言された後に質問されたときの彼の発言である。このポジションは、元 LPM のゲリット・ウィットブーイ評議員のリコールによって空席となっていた。(5 月 19 日付ニュー・エラ紙 3 面)

【経済】

●アルウエンド大臣、Daures のリチウム採掘業者に満足

アルウエンド鉱山・エネルギー大臣は、Longfire Investments の鉱業権は、手続き上、鉱業法を遵守して供与・登録されたと発表し、Longfire 及び同合併企業の Xinfeng が Uis 地区で違法にリチウムを採掘しているという疑惑に対して反論した。Uis 地区の活動家アレセブ氏は、先月行われたアルウエンド大臣が出席した住民集会で、リチウム採掘業者が資源を略奪していると非難し、調査を行うよう要求し、その後同調査が行われた。アルウエンド大臣は、4 月 28 日付アレセブ氏宛書簡で、Longfire の採掘権は手続き上、法に準拠して供与・登録されており満足していると述べた。一方、Xinfeng は先週、書簡でオマルルでのリチウム採掘活動の再開許可を要請し、リチウム工場の設置を実現するためには、必要な資金を得るために採掘作業を開始することが条件であると述べた。(5 月 2 日付ニューエラ紙、4 面)

●アルウエンド大臣、リチウム採掘権を取り消す

アルウエンド大臣は、昨年 9 月 6 日に Xinfeng に発行したオマルル近郊での独占試掘のための 2042 年まで有効なリチウム採掘権を取り消した。ナミビアン紙が確認した 4 月 28 日付中国企業宛書簡で、アルウエンド大臣は、Xinfeng が申請過程で意図的に誤解を招く、真実でない、誤った情報を記載したことが判明したため、同決定を下した旨説明した。採掘権取り消しの決定を受け、Xinfeng は本年 5 月 31 日までに関連事業を停止するように命じられ、同日中に Chirchir 鉱業委員長に採掘権書類を引き渡すことを要求されている。(5 月 8 日付ナミビアン紙、1-2 面)

●Xinfeng、リチウム採掘権取り消しで政府を提訴

(1) Xinfeng は、昨年 9 月に発行されたリチウム採掘権を取り消すというアルウエンド大臣の決定に対して、高等裁判所に緊急申立てを行った。Xinfeng の法的代理人は、「アルウエンド大臣、Chirchir 鉱業委員長、Mufeti 環境委員長に対し、同採掘権を取り消す決定を実行しないように申立てを行った。同社は裁判所に対し、採掘権の取り消しを違法かつ無効であると宣言し、それを見直し、修正し、無効とする措置を求めている。裁判書類は昨日送達済みで、既に高等裁判所に登録されている。Xinfeng は、法的プロトコルに従って、これ以上コメントすることはできない。」と述べた。

(2) 活動家のアレセブ氏は、アルウエンド大臣が Xinfeng の採掘権を取り消したのは、同省が省内で摘発した不正行為を考慮し、同社に対して抜本的な対策を講じることへの優柔不断さと弱さを示すものだと述べた。

「大臣が、Xinfeng が違法に操業していると言ったことで、正当性が証明されたと思っていない。大臣が Longfire を Xinfeng と区別しているために混乱が生じている。Xinfeng は、ナミビア人が所有する Longfire の影武者として活動している。採掘権を取り消すのは良いことだが、同省内の 2 名が Jaco (de Klerk) 氏に請求を行い、Longfire の現オーナーである Januarie (Likulano) 氏に渡したことを知っている。懸念されるのは、大臣が Longfire の広報官となって国内の違法行為を擁護していることである。」と活動家は語った。

(3) セイベブ野党議員は、アルウエンド大臣が Xinfeng に対して突然の採掘権取り消しを行ったことに以下疑念を表明した。「数か月間操業を停止し、6 か月後に再申請をするよう伝えている。アルウエンド大臣が取ったのは偽りの行動であり、彼はこの国を破壊する陰謀団の一員である。同大臣と彼のカウンターパートであるカンジョゼ国家計画委員長官の辞任を要求しなければならない。」「これは鉱山事業の腐敗の一部である。Daures のリチウム企業の違法採掘について何の不正も発見できなかったと言ったのと同じ大臣であり、驚きはない。本日、議会委員会は Xinfeng と面談予定だが、大臣はその会合を欠席するための書簡を提出した。」鉱山省報道官は、本件は裁判所に提訴されているためにコメントすることができないと述べた。(5 月 10 日付ナミビアン紙、1-2 面)

【外交・対外関係】

●SADC の臨時トロイカサミットの開催

8 日、ウィントフックにて、南部アフリカ開発共同体 (SADC) の臨時トロイカサミットが開催された。SADC 政治・防衛・安全保障協力機構の議長であるガインゴブ大統領は、コンゴ民主共和国東部の安全保障上の課題に対処する準備ができていると述べた。このサミットには、SADC 機関トロイカの各国首脳が出席し、3 月の SADC 現地評価ミッションの後、コンゴ民主共和国東部の現在の治安状況を検討することを目的としている。ガインゴブ大統領は、SADC は東アフリカ共同体 (EAC) や他の地域経済圏と協力し、コンゴ民主共和国を支援するための調整努力を強化しなければならないと述べた。また、評価の結果は、現状を理解し、介入の指針を得るのに役立つと述べた。(5 月 9 日付ナミビアン紙 3 面、9 日付ニュー・エラ紙 1 面)

●イスラエルのアパルトヘイト戦術を非難

9日にイスラエルによる空爆で子供数人を含む13人が死亡したことを受け、ナミビア政府は、イスラエルがパレスチナ人を占領し差別し続けていることを再度非難した。9日の国連会議において、オーストリア駐在のナミビア人外交官、ジェリー・ミカ氏は、イスラエルがパレスチナ人に対するアパルトヘイト体制戦略を中止するよう要求した。在オーストリア・ナミビア大使館の政治経済担当官であるミカ氏は、ビデオリンクを通じて国連会議に出席し、数十年にわたってパレスチナ人の人権を侵害してきたイスラエルの記録を非難した。この中には、パレスチナ人の自決権も含まれているという。また、イスラエルの人権侵害と差別的な政策は、パレスチナ地域の不法占拠を助長するものであると強調した。(5月10日付ニュー・エラ紙3面)

●ナミビア、ボツワナ両軍が合流

12日、ナミビアとボツワナの国防軍は、平和活動に関する二国間協定に署名した。この演習では、両国の軍隊がオマヘケ地方の数カ所に配備される予定。ミッション本部は Ben Hur Training Centre に、コンチゲーション本部と前方作戦基地は Tsjaka の Mphe - Tutu Primary School に置かれる。もう一つの前方作戦基地は、ウィトヴレイのドリミオプシスとノソブ小学校で、隊員は校舎の改修や医療スクリーニング、アウトリーチ、スポーツ、その他の人道的活動を行う予定。この演習は、ナミビアとボツワナの優れた二国間関係の枠組みの中で行われ、2021年9月にスワコプムントで開催されたナミビアとボツワナの防衛と安全に関する共同常任委員会の第22回セッションで決議された。(5月15日付サン紙3面)

●ナミビアとドイツ、公園のインフラ整備に1億3240万N\$を投入

環境・森林・観光省は、ドロブおよびスケルトンコーストの国立公園のインフラ整備に約1億3240万Nドルを支出した。この資金は、KfW 開発銀行を通じたドイツ政府の支援により提供された。先週木曜日、クネネ地方のスプリングボックワッサー管理所での引き渡し式で、ポハンバ・シフェタ環境大臣は、新しいインフラはスタッフや公園を訪れる観光客の助けになるだろうと述べた。今回の資金投入により、ドロブ国立公園とスケルトンコースト国立公園のケープクロス、ウガブムンド、モウエベイ、スプリングボックワッサーの管理局で、公園のインフラや設備が稼働を開始した。(5月16日付ナミビアン紙3面、ニュー・エラ紙3面)

●西牧大使のインタビュー

16日、ナミビア通信社のインタビューに応じた西牧久雄駐ナミビア日本国大使は、両国の友好関係が強化されていると述べた。西牧大使は、日本政府がこれまでナミビアの安定と発展を促進するため、ナミビアに対し、総額2億7,100万米ドルを供与してきたことを

明らかにした。(5月22日付ニュー・エラ紙6面) (了)